

寝屋川市が自主登校園を実施

先月2日、コロナウ

イルス感染防止のため、各市の市立小中学校・幼稚園が春休み前に一斉臨時休校園した。突然の休校園宣言は、働く保護者にとっては晴天の霹靂。子どもたちだけでの留守宅を懸念するなか、仕事と家庭の調整におおわらわ。そんな保護者の負担を軽減するため、寝屋川市はいち早く「自主登校園」を実施した。子どもたちの居場所を確保するための市独自の取り組みで、希望する保護者の事前申し込みを受けて、市内24校の市立小学校と5園の幼稚園で土・日



自主登校で勉強中

童会の児童指導員、教職員都市防災課職員と協力して対応した。

参加小学生たちの28、778人中、学童保育を利用している児童は18時30分、他の帰宅児童たちの11、911人が17時まで、一日平均1,798人（全児童数の約16・4%）が小学校友人との時間を過ごした。子どもへの安心安全を第一義に登下校の際には保護者の送り迎えを必須にし、各クラスを20人以内にして換気を行うなど、感染リスクを下げることに注力しながら教室運営に当たった。

曜日を除く24日まで全16日間。普段通り、小学校では給食を提供し、幼稚園は家庭からの弁当持参で学校や園に通えるようにした。期間中は、市危機管理室防災課職員が臨時体制を組み、留守家庭児